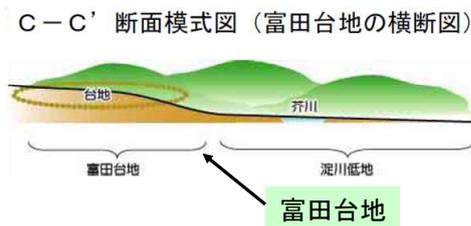


第三章 富田地区の特性

1 地理的・地形的特徴

高槻市は、北は丹波高地に連なる北摂山地、南は大阪平野の北部を形成する淀川低地に伸びており、中央部には日吉台、安岡寺、南平台、奈佐原等の丘陵がつづき、富田台地が南方へ突出しています。

富田地区は市内唯一の台地であり、伏流水があります。



2 富田の成り立ち(歴史的経緯)

(1) 歴史的経緯 (高槻市HP~高槻市発「大王の国から」より)

高槻市の西部にある富田 (とんだ)。現在は JR や阪急の駅周辺を核として発展をつづけていますが、かつての富田の町並みは、駅の南方にある筒井池を中心に広がっていました。この筒井池、別名「紅屋池」と呼ばれ、造り酒屋の紅屋と隣接していたことに由来しているともいいます。現在、その大半は埋め立てられてしまいましたが、もとは本照寺のすぐそばまで広がっており、昭和40年代までは池に映る美しい寺の姿を見ることができました。

江戸時代には、筒井池の南北に町屋が連なり、約500軒・2,000人が暮らす大きな村でした。江戸時代の絵図には、南西部に大きく筒井池が描かれ、北東に旧東岡宿、東側には紅屋、南側に教行寺、西側には普門寺、本照寺といった寺院が建ち並んでいる様子が描かれています。今もその多くが当時の姿をとどめており、富田の歴史的景観をかたちづくっています。

現在の筒井池は、真ん中に道路が通り、道を挟んで西側は筒井池公園、東側は富田支所と公民館となっています。広場は散策やゲートボールを楽しむ人たちなど、市民の憩いの場所として親しまれ、春先には桜が咲き乱れて、歴史の香り漂う町並みに彩りを添えています。



(2) 地域の歴史資源

富田には普門寺、教行寺、慶瑞寺、三輪神社、本照寺、清蓮寺などの神社仏閣が他の地区に比べて残っています。そして、富田は池田、伊丹とならぶ「北摂三銘酒」のひとつに数えられるお酒の名産地でした。最盛期に24軒の酒蔵がありました。現在では壽酒造と清鶴酒造が富田の地酒を守り続けています。また、富田は大阪で初めて地ビールがつけられた場所でもあります。



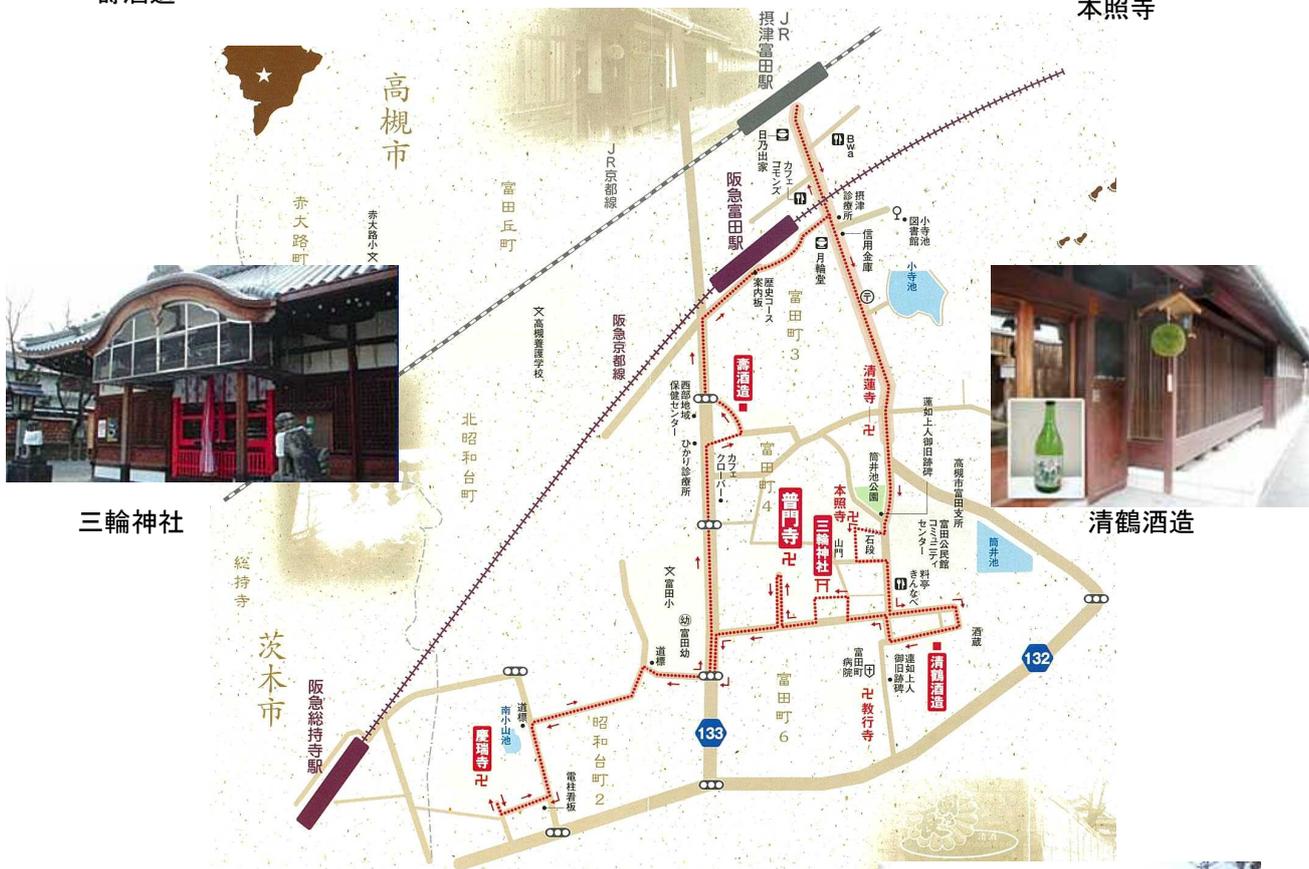
壽酒造



清蓮寺



本照寺



三輪神社



清鶴酒造



慶瑞寺



普門寺



教行寺

3 鉄道の歴史

(1) JR 摂津富田駅

- 明治9年に大阪～京都間が開業
- 大正13年に摂津富田駅が開業
- 一日の乗降客数が約4万人でJR西日本の駅の中では45位
(43位 加古川駅 46位 金沢駅)



(2) 阪急富田駅

- 新京阪鉄道（現 阪急電鉄）は昭和3年に淡路～高槻間が開業
- 昭和32年に、富田町が高槻市と合併したために富田駅に改称
- 昭和56年に地下駅舎が完成



4 富田駅周辺の市街地整備状況

JR 摂津富田駅の北側では、工場跡地などにマンション等が建設されています。これらのマンションの建設は平成14年から開発されており、平成16年～平成18年の3か年で280戸が建設されています。

一方、南側では、桜ヶ丘地区や昭和台地区を中心に良好な環境の住宅地が形成され、さらには、旧寺内町では古くからの民家が多く残っています。

